

## 雲仙火山における地磁気の観測\*

### Geomagnetic Observation at Unzen Volcano

京都大学理学部附属火山研究施設  
Aso Volcanological Laboratory,  
Faculty of Science, Kyoto University

#### 地磁気全磁力変化

第1図は、1993年1月から1995年1月までの普賢岳山頂部における地点N3, N4, W0, W1, W2およびW3の地磁気全磁力変化である。プロトン磁力計による00時から3時59分までの5分ごとの測定値を平均して夜間平均値とし、その値から火山研究施設における同時刻の測定値を減じて単純差を求め、これを日値としたものである。

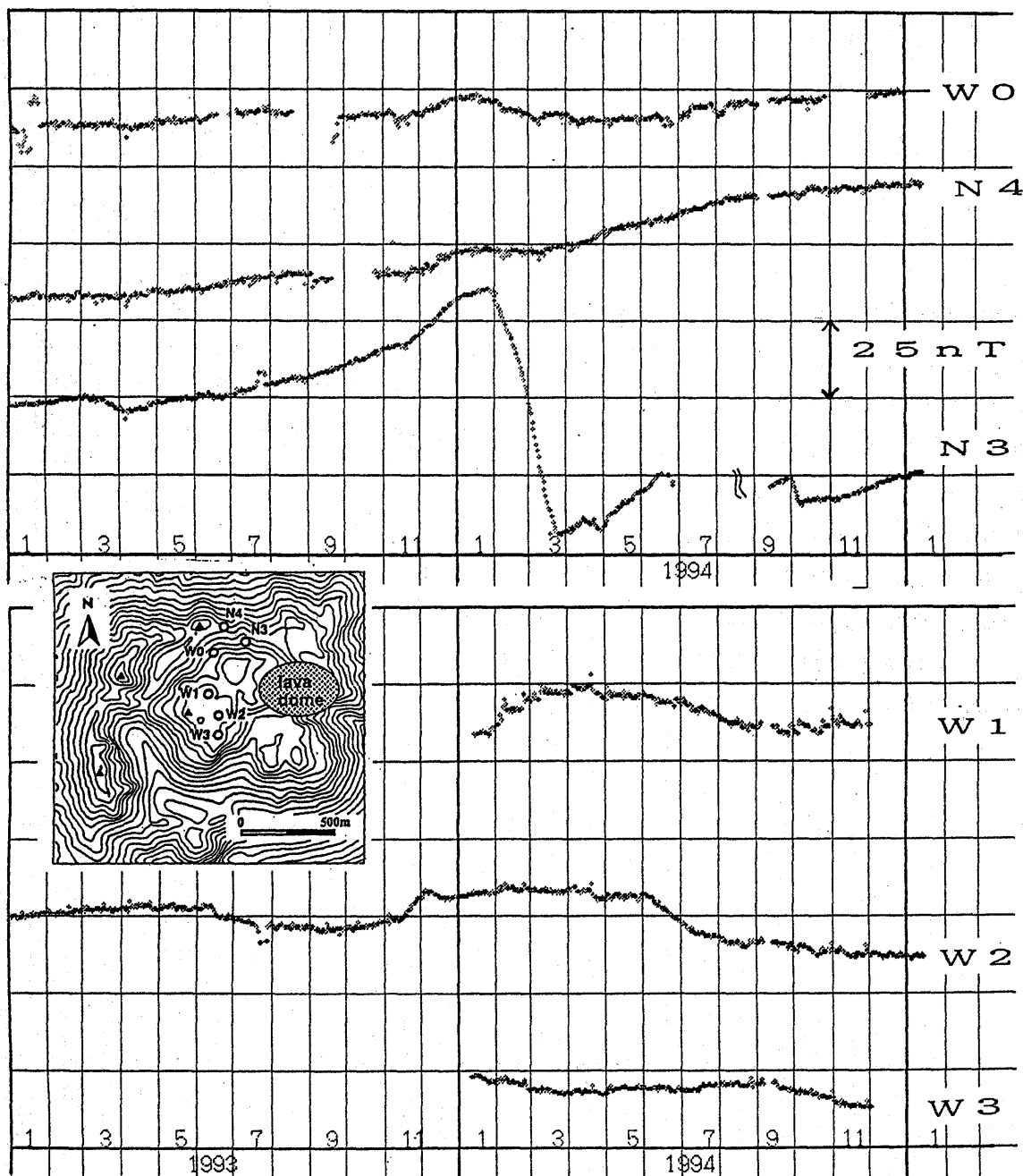
1994年秋以降、ドームの北側地点であるN3, N4およびW0では地磁気全磁力が増加し、逆に、南側の地点であるW1, W2およびW3では減少の変化が観測されている。

この原因は明確ではないが、概ね、ドーム近傍の消磁が進行しているものと考えられる。

地点N3の1994年の初めにみられる大きな地磁気変化は、ドームの北西部の隆起や崩落に伴うもので、1994年7～8月ごろの欠測期間にさらに約170 nT減少したが、図ではこの変化を底上げしている。

---

\* Received 9 Mar., 1995



第 1 図 雲仙岳山頂部におけるプロトン磁力計による地磁気全磁力変化  
 (基準点は京都大学火山研究施設(熊本阿蘇)で、夜間00時から03時59分  
 までの値を平均し、単純差で日差を求めている)  
 (1993年1月~1995年1月)

Fig. 1 Geomagnetic total intensity observed at stations near the Jigoku-ato  
 crater on Unzen Volcano during the period from January in 1993 to  
 January in 1995.  
 Data measured at every 5 minutes were averaged from 00:00 to 03:59  
 and reduced to those at Aso Volcanological Laboratory (about 73 km  
 east).